

そったくとうじ 啐啄同時

鳥の卵がかえるとき、殻の中で雛がつつき（啐）、母鳥が殻をかみ破る（啄）そうです。雛にとっても母鳥にとっても、それはまたとない好機であり、これが同時に働

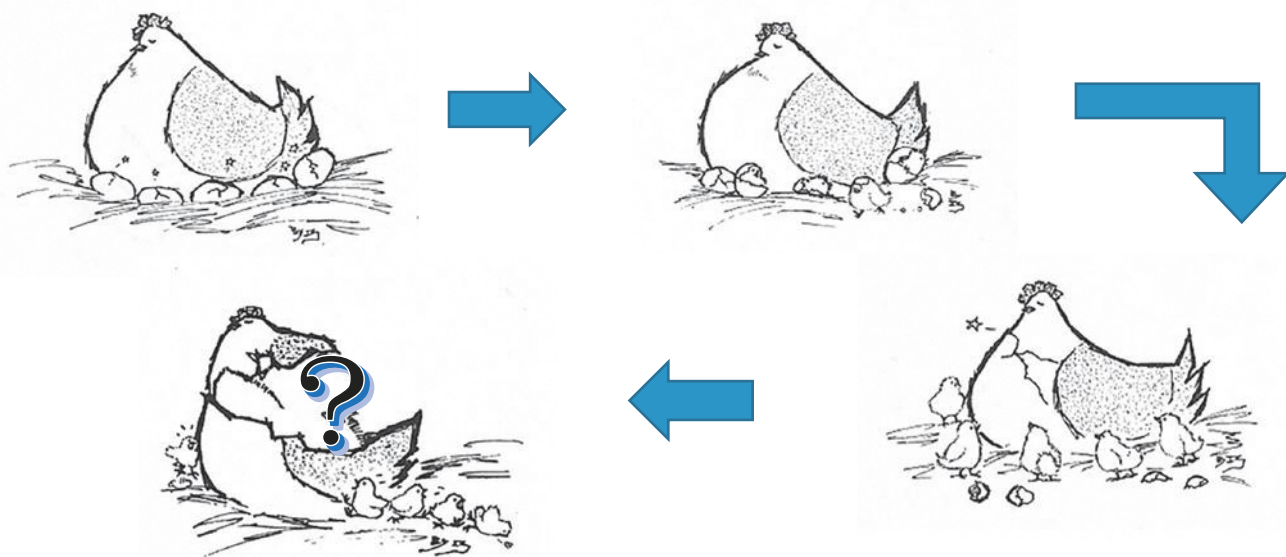
き合うことに大きな意味があります。この卵、縦にして親指と人差し指で押しつぶそうとしてもなかなか割れません。実は人が乗っても割れないくらい強いのです。丸い形に秘密があって、外から受ける力にはなかなか強い力が働きます。

ところが、この卵も雛が中から出てくるときには、簡単に割れるのです！外からの力には頑として強く、内からはわずかの力で出られる！あの卵の中の雛のことですから、本当に微かな力だと思うのですが、自然の摂理の不思議さに驚きます。それなら、母鳥の力は不要かということ、決してそうではありません。母鳥は卵を温めます。これがあって初めて卵の中で成長し、^ふか^かの時機を迎えられるのです。内からの孵化への思いを信じて母鳥は温め続けます。

大利小学校の子ども達と教職員は、この掛け軸のある作法室で勉強したり給食を食べたり行事を行ったりしました。



旧大利小学校作法室



東通村のあちこちで『啐啄同時』を目撃したら、東通村教育委員会までお知らせください。

【連絡・問合せ先】 直通 ☎ 0175-33-2341 FAX 0175-27-3027

教育：人の可能性を引き出すこと

何かを教える、型にはめるのではなく、もっている可能性をその人の力で開かせる、そのためのサポートが教育である。